

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 802 号	氏名	檜原 知里
学位審査委員	主 査	山城 哲	
	副 査	柳原 克紀	
	副 査	中込 治	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>β レトロウイルス属の Mason-Pfizer monkey virus (M-PMV) の Gag タンパクには L-ドメインと呼ばれるウイルス出芽に関与する 4 アミノ酸配列が 3 つ (PPPY、PSAP、YADL) 存在することが知られているが、本研究は 3 つの L-ドメインの役割を明確にし、ウイルスが複数の L-ドメインをもつ意義の解明を試みたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>L-ドメインが細胞種ごとに使い分けられている可能性を検証する為に、それぞれに変異を導入した M-PMV 感染性クローンを作成し、由来の異なる 3 種の細胞株 (293T 細胞、HeLa 細胞、COS-7 細胞) に導入し、ウイルスタンパク質合成、キャプシド形成、細胞内 Gag 輸送、ウイルス産生を Western blot 法および蛍光抗体法により比較解析した研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、3 つの L-ドメインのうち PPPY 配列は何れの細胞でも L-ドメインとして機能しているが、PSAP 配列は HeLa 細胞で L-ドメインとして機能しているものの、293T、COS-7 細胞では L-ドメインとして機能していないことを示した。また、YADL 配列は Gag タンパクの細胞膜への輸送に関わるドメインであることが示唆された。今後のレトロウイルス出芽に関する研究の進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は L-ドメインの機能解析に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			